

(別紙6)

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0770402444		
法人名	医療法人社団 秀友会		
事業所名	グループホーム サンファミリー		
所在地	福島県いわき市常磐藤原町大畑13-1 (電話) 0246-72-1325		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利七社宮111番地		
訪問調査日	平成19年7月2日	評価確定日	平成19年7月31日

## 【情報提供票より】(19年5月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤7人, 非常勤1人, 常勤換算6.5	人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	350 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		円	

### (4) 利用者の概要(5月25日現在)

利用者人数	7名	男性	名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2			
要介護3	2名	要介護4		3名	
要介護5		要支援2			
年齢	平均 85.8歳	最低	77歳	最高	93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	いわき湯本病院・細島歯科医院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者を中心に利用者の観察や見守りをしっかり行うことで、利用者は日常生活を通して生き生きと過ごしている。管理者や職員は観察をしながら生活の中で笑顔が見られたときには何がよかったのかを探るようにしている。その際のアセスメントは家族面会時の聞き取りも利用されており、家族と職員との良い関係作りなどに繋がっていると感じた。さらに利用者に関する理解が深まり、個別ケアが提供できる要因になっている。また理念に掲げている「急がせず笑顔の絶えない温かい家」「ありがとう感謝を忘れずに」を実行している様子が見受けられた。立地条件上地域との関係作りに影響があるが、現在は運営推進会議を利用して徐々に理解や協力を求めているところである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) ア. 家庭的な玄関周りになるように手作りの看板を作ったり、季節に応じた飾りつけをし、改善に取り組んでいる。また、観葉植物を間仕切りに活用している。 イ. 緊急時対応のマニュアルを見直し、使いやすようにした。 ウ. 食材の買い置きを控え、頻繁に買い物に出かけるようにしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価前にテキストを購入しスタッフ全員で内容を確認。全員で自己評価を個別に作成し、分担してまとめ上げた。結果、事業所全体において業務を見直し、見えてない部分を認識することができた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5) 運営推進会議はこれまで1回しか開催していない状況である。しかし、開催に当たっては事前に利用者家族、地区の区長などのメンバーを訪ね、運営推進会議の資料を持参し、説明した。内容に関してはア. 理念、イ. 現状に関しての説明と家族の感想、ウ. 活動報告、エ. 前回の外部評価の結果報告、オ. 地域密着実現のための協力依頼を行った。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 意見箱を設置したり、スタッフが積極的に声をかけ意見を得るようにしている。また、担当者が毎月の請求書送付時に手紙を同封したり、面会時にかかわる等してなじみの関係を作っている。面会時には楽しんでいる場面について報告し、家族からもその根拠となる情報を得るようにしている。また2ヶ月に1回はハガキを送り意見を記入してもらおうような働きかけも始めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ア. 地域の理容店に働きかけ、利用時にはお店でゆっくりできるように配慮していただいた。また、目の前にある和菓子屋の喫茶コーナーに出かけたりしている。 イ. 小学生との交流をきっかけに、小学校の運動会や発表会に招かれるようになった。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今まであった理念を見直し、サービスの停滞を改善するために原点に戻って考え、「急がせず笑顔の絶えない温かい家」「ありがとう感謝を忘れずに」と作り直した。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を作り直す際には管理者とスタッフで相談して決めた。スタッフ聞き取りの際にも「笑顔が返ってくる、互いに感謝しあえる関係作りを意識している」という話しが聞けた。また、理念実現のための取り組みも行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人施設に来ていた小学生との交流をきっかけに地域との関係作りを行った。最近では運動会や学習発表会に招かれるようになった。また地域への働きかけとして、地区の行事にはスタッフから参加し、関係作りにも取り組んでいる。	○	現在の取り組みから徐々に広がるように今後も継続した関わりを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回はスタッフ全員でテキストから読み始め自己評価をした。前回の外部評価結果は玄関に提示しており、外部評価の目的をわかり易く明示し、手に取りやすい状況を作っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議はこれまで1回しか開催していない状況である。しかし、開催に当たっては事前に利用者家族、地区の区長などのメンバーを訪ね、運営推進会議の資料を持参し説明した。内容に関しては理念や現状に関する説明と家族の感想、活動報告や前回の外部評価の結果報告、地域密着実現のための協力依頼を行った。</p>	○	<p>地区の住民の意見を聞いたり、ホーム内の課題を話し合うことで一緒に改善策を検討する等、運営推進会議を効果的に利用していただきたい。</p>
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の請求書郵送の際に担当スタッフが手紙を書いたり写真を同封することで、家族にも利用者の生活状況が伝わりやすいように配慮している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月ホーム独自の「ニーズ把握票」を利用し、利用者、家族双方のニーズや意見を聞く機会を設けている。また、2ヶ月ごとに家族等へハガキを送り、積極的に意見を収集する機会を設けている。さらに玄関に意見箱を設置している。</p>	○	<p>意見箱の場所は玄関先で目に付きやすい反面記入しにくい場所のため、記入しやすい場所を検討するなど効果的な活用法を検討してほしい。なお、ホーム独自の「ニーズ把握票」を使った取り組みはケアに活かせるよう今後も積極的に取り組んでほしい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>併設の老人保健施設はあるが異動はほとんどない。管理者が異動による利用者の負担を理解しており、極力異動がないような配慮をしている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ミーティングを開催しているが、議題は管理者等が準備するのではなくスタッフが交代で担当するというスタッフ主体の取り組みをしている。また、グループホーム連絡協議会の方部勉強会や近隣地域の勉強会にもスタッフが参加できるようにしている。	○	内部の研修機会を今後も充実させていただきたい。材料としては自己評価の内容に関してひとつずつ確認する機会を設けるなどの検討をいただきたい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が今年からいわき市のグループホーム協議会の研修担当であるという状況を利用し、なるべく積極的に出られるように配慮している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念にもあるように感謝される立場から、利用者と互いに感謝し合える関係作りを意識して取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向をなかなか表現できない方も多いので見落とさないように日々の会話や表情から気をつけて観察している。また、毎月定期的に利用者の生活のニーズ把握票を利用し、意向を把握している。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族には問題点を報告するのではなく、笑顔の場面について報告し、家族からもその根拠となる情報を得るようにしており、プラン作成の材料にしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに一人一人サービス担当者会議を開催し見直しを行っている。また、利用者のニーズ把握票を用いて毎月定期的に見直している。	○	サービス計画がケアに繋がって提供されるような取り組みを今後も意識し、継続していただきたい。
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期通院は入居前のかかりつけ医を継続利用している。いわき市の医療機関の認知症専門医へいつでも相談でき、助言をいただける関係を作り上げている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム内スタッフや法人などと検討したが、今のスタッフ構成では責任もって受けられないという意見になり入居時の相談の際に「できること」「できないこと」を説明し、了解いただけるような対応をするようにしている。	○	他のグループホームの取り組みなども参考にしながら、職員と方針の検討をしていただきたい。また、運営推進会議での意見交換も踏まえて少しずつ検討を進めていただきたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	朝の挨拶を一人一人に合わせて行っている。また、トイレ誘導の際にもプライバシーに配慮している。個人情報に関しては、身元引受人となっている家族等以外の方からの問い合わせには安易に答えないようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	物事を一緒に行う際には全員で行うのではなく、その方の興味を判断し参加を促している。また、利用者の状態を観察し、どのように過ごしたいのか見極めるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態は一人一人の経口摂取状況に応じさまざまで、好き嫌いの把握を元に食事を提供している。できる方には積極的に準備や後かたづけを手伝ってもらっている。食事はスタッフ全員が利用者と一緒に食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は希望に応じて夕方に行っており、そのために職員の遅番の時間を21時まで設定している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	農業を営んでいた方を中心にホーム敷地内に畑を作り、草取りを一緒にしたり栽培の助言をもらったりしている。日めくりカレンダーをめくる役割の方は決まっており、その方の居室前の廊下には毎日気づくように日めくりカレンダーを準備している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	町内の理容店に働きかけ協力を得て、外出するようなきっかけを作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム内すべての出入り口に施錠はしてない。ホーム外に出て行く方がいてもすぐには追いかけて、見守りをしながら安全面に注意している。	○	利用者に無断外出の意思の有無に関わらず結果として無断外出が起こることもある為、引き続き安全面の配慮に注意して頂きたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の老人保健施設と共同で避難訓練を行った。また、マニュアルも作成されており、普段からタコ足配線を使わないようするなど日ごろから注意している。夜間急変などの緊急時には併設の老人保健施設の看護師がすぐに来て初期対応を行ってくれる。	○	夜間の職員の体制等を考えると、災害時の対応を徹底しておく必要がある。また、災害対策はやりすぎることではないので、消防署の協力の下、ホーム独自の訓練を定期的に行っていただきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設施設の管理栄養士にチェックしてもらいバランスに注意している。また、水分量などは個別に把握して、提供するなどしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では家具等を背中合わせにしたり、観葉植物を置いたりして、間仕切りをし、居心地の良い空間を作っている。調度品は家庭的なものが多く、裁縫道具、はさみなどの文房具、コタツ布団などが生活感が出るよう安全に配慮して置かれている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅からの家具などを持ち込んでいる方もいたが、殺風景な部屋もある。家族への協力依頼をしているがなかなか結果に結びつかない。	○	入居前の自宅訪問の機会や、入居後の家庭訪問などの機会を作りながら、ホームに持参する使い慣れたものを一緒に選ぶなどして必要に応じて、常になじみの家具を揃えるような取り組みを行ってほしい。

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(別紙1)を添付すること。



### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム サンファミリー  
記入担当者名 佐川 友恵

評価結果に対する事業所の意見
特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。